

拷問をめぐる対面する二人の激突

——元 CIA 高官の手記

【訳者コメント】これは相当の衝撃を世界に与えるものと思われる——読むことが妨害されなければ。手記の形で個人的立場から語ることによって、恐ろしい犯罪と狂気の現場が浮き彫りになる。いかに信じられない、信じたくないことであっても、これが米国政府を最も奥で支配し、世界制覇を狙う者たちの姿であることを、受け入れなければならない。かつてジョン・レノンが言ったように、「この世界は狂人によって支配されている」。最後のマクガバンの手紙の末尾にあるように、この事態は（大革命によらない限り）「修復不可能」である。悪いところがあったら改めればよいといった問題ではない。我々が目覚めるべきことは、本質的に犯罪者である者が世界の警察を装っていたという事実である。

Information Clearing House (December 14, 2014)

2人の元アメリカ高官が、拷問のような深刻重大な問題について、憤激してぶつかり合うのをテレビで見るのは滅多にないことである。通常は礼儀が支配する。しかし元 CIA アナリストの *Ray McGovern* は、前下院情報監督委員会チーフが、鷹揚に拷問を弁護して切り抜けようとするのを許さなかった。

By: *Ray McGovern*

お前がこのような機会を得たとき、怯んではいけない——先週木曜日、私のアイルランド系の祖母が私に言っているのが聞こえた。私は、拷問の問題を議論すべく、そのような行為を防止するのが役目だった前米議会委員会議長と、テーブルについていた。

ほとんど肩が触れ合うほどに私の右側にいたのは、前下院情報委員会議長（2004 - 2007）のミシガン選出共和党員 *Pete Hoekstra* であった。セントラル・チャイナ TV が、我々2人を招き、CIAの拷問に関する上院情報委員会の報告内容について論じてくれるよう求めた。もちろん私は快諾した。というのは、“強化された訊問方法”（*Enhanced Interrogation Techniques*）と言われているものの最前線にいたホークストラが、どのようにそのすべてを説明するか、私は大いに興味があったからである。

今ここに、拷問を終わらせることのできる、彼にしかない強力な立場にいた、節操のない道徳的小人と衆目の中で対決する、またとない機会があった。これはまた奇妙なひと時でもあった。なぜなら、ホークストラ——星座の中で最も輝く星ではない——は、自分の非道な不法行為と職務不履行を忘れていたように見えた。あるいは自分の振舞いが、拷問ファンでない人々にどう映るかを、忘れていたようだった。

ホークストラが下院情報“監督”委員会議長を引き受けたのは2004年、前議長のフロリダ選出共和党員 Porter Goss が、George Tenet に代わって CIA 局長になるには最適の人物として選ばれたときだった。テネットは2004年7月、屈辱のうちに辞職したが、イラクのありもせぬ虚構の“大量破壊兵器”をいまだに求めていた。

先週、表に出始めた拷問スキャンダルの最中に、セントラル・チャイナ TV アメリカの昼間のトークショー“ザ・ヒート”で、ホークストラは、“強化された訊問方法”と彼の呼ぶものの熱っぽい弁護を展開した。まさに下院情報委員会が知っているこの問題について、彼と私が、そっけなくやり取りする機会がやってきたのは、このショーの終わり近くだった。

私はあらかじめテレビ視聴者のために、このプログラムについて引用されている、ホークストラや彼の仲間の喋った嘘っぱちの、解説をしてやろうと用意していた。ある時点で、幸運なことに、司会者が私に、テロリストの追加攻撃を防ぐ“緊急性”のために、拷問のような便法はやむをえなかったとする CIA の恐怖を動機とする議論について、意見を求めた。

ここで私は、上司だった Larry Johnson に感謝しなければならない。彼はその日早くに、拘束者 Abu Zubaydah の逮捕と訊問の、現実の時間的前後に私の注意を引き、もし本当にそういうシナリオが“時間的緊急性”の理由だとしたら、我々は大変な世界に住んでいることになると言った。

FBI の訊問者が、2002年4月、アブー・ズバイダーに対して、伝統的な、関係構築のアプローチを用いて多くの有益な情報を引き出した後で、ワシントンは（いまだ十分に明らかでない理由で）彼を CIA に引き渡すよう FBI に命じた。CIA は彼を独房に入れ、2002年6月中旬から8月4日まで全く何の質問もせず、一方で、拷問に好意的なワシントンの弁護士に時間を与えて、水責めやその他の虐待方法を“権威づける”何らかの拷問を法的に正当化する文書を作るように求めた。ズバイダーはその後、83回水責めにされたが、有益な情報は何も得られなかった。

ホークストラとの激突

番組が終わり近くなって、司会者はもう一度私に戻って、前副大統領ディック・チェイニーの拷問計画の熱心な弁護をどう思うか訊ねた。私は、ブッシュ政権が“暗黒サイド”に落ち込んでいくとき背後にいた“黒幕”としてのチェイニーに、批判を集中した。

しかし私はまた、ホークストラが知っていて共謀したことで、彼を追及する機会を捉えた。ただ私は、身の毛もよだつ拷問方法——水責めや天井吊るしから裸の強制や **rectal rehydration**（直腸からポンプで水を入れる）まで——に関する直接の知識については、逃げ道を残してやるように配慮して質問した。

「ホークストラ議員さん、私は彼（チェイニー）とあなたの中に相談があったかどうか知らないが、きっとあったと思うが、あなたがこうしたことを知らなかったにせよ、大目に見たにせよ、私はこれにはひどく驚いている」と、私はほんの数インチ離れたところからホークストラに話しかけた。

「私はかなりオープンだったと思うよ」と彼は答え、知っていて認めていたことを明らかにした。

マクガバン：「あなたはそれを大目に見ていたわけだ。いや驚いた！」

ホークストラ：「これはあなたにも説明した。議会のメンバーにも、共和党にも民主党にも、両側の指導層にも、8人の…」

マクガバン：「拷問は OK だと思ったわけか？」

ホークストラ：「強化された訊問方法は…」

マクガバン：「それは拷問だ」

ホークストラ：「…適切だと思った」

マクガバン：「言い方のごまかしはよしなさい、それは拷問だろう」

ホークストラ：「いや、法務省が…合法的と認めたのだ。我々が聞いていたことに驚いたというなら、ちがう」

マクガバン：「私はあなたが、それについてブリーフィングを受けていたことに驚いている。あなたはそうしたことを監督する立場ではなかったのか！　そういうことはやめさせるべきだった…　あなたは選択ができた」

ホークストラ：「いや、できなかった。共和党も民主党もこのプログラムのブリーフィングを完全に受けていた。そして我々は合意していた」

それでも私は、この前米議会議員に、彼が自分で自分を追い詰めようとしている、拷問支持の立場からの逃げ道を与えようと思った。そして——あなたは CIA やブッシュ政権に間違った方向へ導かれてきつと当惑していたのだろう、あなたはきっと暗黒面の最も暗黒な部分について何も知らされていなかったのだろう、と水を向けた。しかしホークストラはこれに乗ってこなかった。

マクガバン：「あなたは騙されていて、自分が騙されていたと認めるのを恥と思っているのだろう」

ホークストラ：「私は騙されて恥ずかしいなどとは思っていない。私はこうしたプログラムが我々に知らされていたと認めているのだ。私は自分のスタッフたちの所へ戻って行って、この“真相暴露”が出てくる前に話したよ。この **Dianne Feinstein** 報告で言われていること、この偏った報告、この民主党報告について、我々はどれくらい知っていたか？　90 から 95 パーセントは知っていたよ」

マクガバン：「何というひどい話だ！　恐ろしいことを認めるのだな。あなたは恥ずかしいと思わないのか？」

ホークストラ：「いや、恥ずかしいとは思わない」

マクガバン：「なんとまあ！」

それからホークストラは、CIA での私の以前の同僚を、私が裏切るようなことをしたと言おうと試みた。あたかも、拷問を推し進めた少数の高級官僚と、それを実行した少数の者たち——ほとんど請負業者——が、私が 27 年間勤めた CIA の大多数の仲間を代表しているかのように。ホークストラは赤旗を振って挑発していた。それで私は、通常なら義務とされる敬意と礼儀を捨てて、雄牛を演じた。私は彼に一発かましてやった。(時にはアイルランド系であることは役に立たない。)

ホークストラ：「私は、あなたの CIA での多くの同僚と同じように、違った結論に達したのだ…」

マクガバン：「その連中は私の同僚などではない！ そいつらはディック・チェイニーに雇われたゴロツキだ！」

ホークストラ：「彼らはあなたが離れていった人々だ。彼らはアメリカにとって英雄で…」

マクガバン：「彼らはディック・チェイニーを頭とするゴロツキだ！」

ホークストラ：「アメリカを護っているのだ。」

ここで司会者は、この番組を礼儀正しく終わらせた。[このやり取りは、パート3の8:23から10:41をご覧ください。ただパート1から3まで、全体を見るだけの価値があると私は考える。]

限られたアメリカの視聴者

アメリカ人で、12月11日の“ザ・ヒート”を見た人、またはユーチューブで見ると見る人は少ないだろう。しかし CCTV によれば、この番組の中国語訳を見る人は、中国以外も含めるとふつう 100 万人になるということだから、多少の慰めになる。たとえ実際の数はその半分としても、アメリカの視聴者より多いことになる。

上院報告が出された12月9日以来、私は、カナダ TV、スカイ・ニュース（英）、2つのテープによるロシアのプライムタイム日曜 TV 番組、ラジオ・スコットランド（BBC）、ラジオ・ニュージーランド、3つのラジオ・パシフィカ番組のインタビューを受けた。上記の一部は私を4回も呼んでくれ、私はこれ以上の招きは断らねばならなかった（そのすべては外国のものだった）。

何らかの理由で、火曜日朝の迅速なプレス・リリースにもかかわらず、アメリカのメディアは、私の拷問問題についてのぶっきらぼうなコメントに興味を示さなかった。CCTV のインタビューが示したように、私は拷問を論ずるときに、特にそれを防止できた、そしてすべきだった人々と一緒のときには、楽しい人物であることを期待できなかった。

そのことから思い出すのは、2006年5月4日、アトランタでのこと——ドナルド・ラムズフェルドと私が4分間の即席の討論をした後で、CNNのPaula Zahnから、「あなたは

つごろから国防長官に、そのような個人的な敵意をもっているのですか？ どうしてアトランタまでも彼を追いかけてきたのですか？」と訊ねられた。

個人的な敵意ではない、と私は正直にポーラに説明することができた。私はただ、侵略戦争を始め、拷問を可能にする人々について、そういう感情を持っているだけだ。（“強化された訊問方法”という美名が一般の語彙になるのは、4か月先だろう。）

アトランタくんだりまでどうしてラムズフェルドを追いかけるのかに関しては、私は前日にここへ来たのであり、それは名誉なことに、ACLUの「国民市民的自由賞」を受けるためだったと説明した。ラムズフェルドのスピーチに出席したのは、単なるおまけだった。

しかし白状しなければならないが、私はホークストラに対しては個人的な不満を確かに持っている。彼は2006年、私がかつて個人的に経験した、最も汚い策略の一つを私に仕掛けた。下院情報委員会の他の委員に相談することなく、彼は、**Intelligence Authorization Act for FY 07 (HR5020)** の草稿に、政府は、情報部退役者には政府年金を拒否することができるという規定を書き加えた。HR5020は、下院は通過したが、上院はこの案件を継続審議とすることにした。

だからこれはどちらかと言えば、ホークストラが私の情報部退職者仲間と私に、何らかの敵意を持っていたということであり、私たちは、彼の委員会が見逃した（奨励したとは言わないまでも）拷問をずっと暴いていたのである。私たちの法的な年金を取り下げようとする彼の企みは、2006年3月2日、私が——拷問に反対する良心の問題として——「特別に表彰すべき勤務」に対して、私の退職時に与えられた“情報部表彰メダル”を、彼の下院オフィスへ返却しに行った少し後で始まった。私はそのとき、「私は拷問に携わっている部局と、いかにわずかにでも関係を持ちたくないのです」と説明したのだった。

12月11日、“ザ・ヒート”が時間切れになった後で、私は機会を捉えて、ホークストラに、我々は、彼の我々に対する卑劣なやり方を十分に知っている、と知らせてやった。

それより前、CCTVの司会者が私を紹介するとき、私がCIAの拷問の問題で、情報部表彰メダルを返却した事実を紹介した。そのとき私は、よほどホークストラに、なぜ私の（メダル返却を説明する）手紙の受け取りも返事もくれないのか、聞きたい誘惑に駆られた。しかし私は、拷問を黙認するという、彼の良心を欠く不法行為そのものを責める方が、私のかつての同僚と私を狙って彼が成功するところだった、汚い計略のことを言うよりも、よほど楽でかつ重要だと直ちに判断した。

そこで私は、番組の時間が切れるまで待つて、私たちはみんな彼のやったことを知っていて、どう思っているかを彼に言い、あなたはなるべく早く（選挙区の）ミシガンに帰った方が、ワシントンの正直な人々のためにはよいことだと忠告した。

下に掲げるのは、2006年4月に私がホークストラに渡した手紙である。実際は彼の事務職員に渡さねばならなかった。彼がオフィスの奥に隠れているという気配はあったが、彼らは留守だと言った。多分彼はCIAにおいて、“強化された訊問方法”のブリーフィングを受けていたのだろう――。

March 2, 2006

親愛なるホークストラ議員殿、

良心の問題として、私は、私の27年間のCIA勤務の“特に表彰すべき勤労”に対して私に与えられた「情報部表彰メダル」を返却いたします。問題は拷問で、これは強姦や奴隷と同じ範疇に属するもので、本質的に悪です。私はいかにわずかにでも、拷問に携わる部局と関係を持ちたくありません。

CIAの職員が拘留者を拷問しているという近年の報告は、たいへん心を痛ませるものです。ある種の確認が現れたのは昨年秋で、このときCIA局長のポーター・ゴスト、ディック・チェイニー――ワシントン・ポストによって“拷問担当副大統領”という綽名を頂戴しています――は、上院議員ジョン・マケインに詰め寄り、CIAを、彼の修正条項の拷問禁止から免責するように要求しました。それに続くいくつかの報告は、イラクにおける、拘留者が訊問中に死んだ数例を含む、捕虜虐待のいくつかのケースでの、部局職員の関わりを示しています。

CIA局長のジョージ・テネットやポーター・ゴスが、不法なホワイトハウスの指令に従ったことが、CIAとこの国に――拷問され殺された者は言うに及ばず――回復不可能の傷害を与えることになりました。あなたが「情報に関する下院常設特別委員会」の議長として、憲法下でのあなたの監視責任に専念するよりも、ホワイトハウスにより忠誠を示していることは、もう一つの深い失望です。どうして、あなたとあなたの同役のPat Roberts上院議員は、拷問を見ぬ振りをし、文字通り殺人を犯したある者たちを逃してやり、しかもあなたの良心とそれを向き合わせるができるのでしょうか？

もし、1930年代に、そんなことをするように命ぜられたドイツの高官が、早い時期に、十分に大きな声で堂々と発言していたら、ドイツ国民は、彼らの名前で行われていた残

虐行為に気づき、それをやめさせるもっと真剣な努力をしたことでしょう。私の孫たちが私に、「おじいちゃんは拷問をやめさせるために何をしたの？」と聞いたら、私はこう答えることができればいいと思っています——私は軍の将校として、また情報部職員として誓った、合衆国憲法を護るという誓約を大切にするように努めた——そして私は、拷問に対して強く反対の発言をただけでなく、そこから関係を絶つためのある象徴的な方法を試みた。

我々アメリカ人は、我々の罪を、我々の機関に犯させるという習慣がついています。私は過去数年間の CIA の腐敗を嫌悪しており、修復不可能と考えています。私はそれに関係するどんなメダルにも名を刻まれたくありません。どうぞこれを破壊してください。よろしくお願いします。

真にあなたのもの、レイ・マクガバン

(Ray McGovern は、ワシントン内市の世界救世主教会の出版部門である Tell the World で働いている。彼は歩兵隊/情報部将校として勤務し、後に CIA アナリストとして計 30 年間奉職し、現在は、Steering Group of Veteran Intelligence Professionals for Sanity (VIPS) の会員。<https://consortiumnews.com>)